

第554回 放送番組審議会

1. 日 時 2019年7月16日(火) 午後0時45分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 8名

委員長	三浦 茂樹
副委員長	恒川 かおり
委員	大橋 綾子
委員	佐藤 健志
委員	高橋 司
委員	渡辺 理雄
委員	前田 千香子
委員	石田 亨

欠席委員 1名

委員	加藤 千晶
----	-------

社側出席者	榎野 信治 (代表取締役社長)
	青山 尚之 (専務取締役事業局長)
	池田 学 (取締役経営企画局長 兼 技術局長)
	柴柳 二郎 (報道制作局長)
	廣嶼 文樹 (報道制作局制作部副部長)

事務局	畑山 篤 (取締役編成局長 兼 放送番組審議会事務局長)
	平山 亜希子 (編成局編成業務部副部長)

4. 議 題

1. 7/7 (日) 7:00～7:30 ガンライザーTV
2. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・視聴者からのご意見

6. 意 見

委員側意見

- 前半のドラマ部分で子供の心をはっきりつかんで、その勢いで後半はいろんな地域の紹介をして子供に見せつつ、親御さんにも興味を引くような中身にしていて、作戦と感じた。
- とても良い企画だと思った。「岩手にはたくさんのヒーローがいる」というセリフなど、様々な人がヒーローであり、岩手にはたくさんのヒーローがいるということ、子どもたちに植え付けられるのではないかと感じ、前向きなメッセージがたくさん散りばめられた番組だと思った。
- 「ぶらり旅」のコーナーで素朴な疑問として、ヒーローが敵キャラと一緒に旅をしているのに違和感があった。
- 「バレーボール大会の会場に行きました」というナレーションで、中学校のバスケット部が出てきている。どちらかが間違ったのか、たまたまバスケット部がそこにいたのか。
- 着ぐるみの食レポはそこで笑いを取るということもあるかとは思うのだが、ちょっと無理があると感じた。
- 「ガンチャレ」のコーナーは大人でもためになった。
- 普段見慣れた景色、聞き慣れた方言など、日常を身近に感じながらヒーロー番組が展開されるということについては、子供達が地元の岩手をもっともっと好きになってくれるのでは、と思っているし、ぜひそういう番組にしていきたい。
- 時間をおいて過去の作品を見るのが面白かった。ガンライザーもついにシーズン9が始まるということで、震災後に始まって、こうして積み重ねてきた歴史が素晴らしい。
- ドラマ部分の再放送の内容を放送する直前に30秒でも1分でもいいので振り返りを入れていただけると、感動的なシーンで感動できないということは避けられたのではないかと感じた。新しい視聴者を獲得するという意味では、テロップを入れるとか、同じ番組を放送するのでもちょっとひと手間をいれるととても良い新しい番組になるのではないか。
- 番組の視聴者層がどのあたりなのか気になった。

○矢巾町の「タケルンジャー」と、奥州市の「ヒャクシカイザー」のネーミングの由来を知りたい。

局側意見

- 取材させてもらって中学生が参加した大会がバスケットボールかバレーボールかの問題について指摘されるまで気がつかず申し訳ない。バスケットボールが正しい。
- 子供向けの「らどんぱ!」という番組ではショートアニメ、スポーツを入れていたが、そこを外して今回「ぶらり旅」とか「ガンチャレ」を入れた。親子含めてファミリーで見られるもの、ということに少し広げた形。
- ドラマパートの再放送は、毎週新作を流すというようなことは難しく、年にワンシリーズだけ新作で制作している。
- 視聴者層については、少し広げたいという思いはあるが、小学校低学年中学年くらいまでがメインターゲットとしてはある。
- 再放送前に振り返りを短くダイジェストで入れるというのは確かにわかりやすいと感じた。
- 社としてコンテンツという考え方をきちんとやろうと思ったのがこの企画で、著作も弊社が初めて権利ホルダーとなり DVDなどをきちんと売るなどしようとしたもの。

7. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

公表の方法

- ①自社放送 7月23日(火) 11:45-11:52 「あなたと歩むテレビ岩手」
- ②テレビ岩手本社での備え置き
- ③読売新聞への掲載(別添)
- ④自社HPでの掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>